

伝統建築模型制作による建築技能習得と地域社会への貢献

正会員 井 上 年 和 殿
正会員 砂 川 晴 彦 殿
大 田 精 一 殿

本教育活動は、伝統建築プログラムにおける伝統建築模型制作を通じて、建築技術の習得、実践性、協調性、コミュニケーション力、表現力を高めるといった、多面的視点を盛り込んだ教育を展開するとともに、大学周辺に伝統建築が多く存在するという地域特性を踏まえて、伝統建築の模型制作を通じた地域貢献を実現している、特徴的な点を有している。

伝統建築に関わる知識、技術等の継承はわが国の建築教育にとって重要な課題である。本教育活動では、伝統建築模型制作を通じて、図面をもとにした部材の拾い出し、数量の把握、組立順序や取付方法など工程を検討するなどの生産設計・建築施工の実践性にまで踏み込んだ内容としている点や、軸部、床組、小屋、軒廻り、雑作などを班ごとに共同で作業を進めるなど、協調性・コミュニケーション力などの習得にもつながる点、模型の仕上がりを意識した加工精度を高めるなどによる表現力の向上が図れる点、実際に図面・模型を制作するための現物見学による観察力の向上が見込める点など、伝統建築模型制作を多面的、立体的な総合教育活動として組み立てているところに特徴が見られる。

また、数多くの伝統建築が存在する京都という立地特性もあり、耐震対策の構法検討、記録保存、活用提案など様々なニーズに応じて伝統建築模型制作の題材を設定することで、地域社会への貢献にも積極的である点も評価できる。

こうした伝統建築模型制作を軸とした教育活動によって、建築構法への理解が深まり、実践的な建築に関わる能力を習得できることが期待される。また、制作の達成感や意欲の向上などの教育上の効果も得られるとともに、宮大工や屋根葺き師、指物師などの職人、修復設計にあたる技術者など伝統建築の担い手を輩出するといった成果を得ており、伝統建築の担い手の継承にも多いに貢献している。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。